

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 8 月 19 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21530152

研究課題名(和文) 日中国交正常化の政治過程

研究課題名(英文) Japan-China Normalization

研究代表者

服部 龍二(Hattori, Ryuji)

中央大学・総合政策学部・教授

研究者番号：80292712

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：対中関係の政策過程を分析するため、外交記録を精査した。また、政治家、外交官、新聞記者などにインタビューした。

国際環境については、データベースJapan and the United States: Diplomatic, Security, and Economic Relationsなどにも当たった。

その結果として、政治家のリーダーシップ、外務省の役割、日米関係における中国の位置などを跡づけた。

研究成果の概要(英文)：I investigated diplomatic documents to examine the political process of the Chinese relations. I interviewed politicians, diplomats, newspersons.

As for the international environment, I read the database of Japan and the United States (Diplomatic, Security, and Economic Relations). In consequence, I made clear the leadership of the politicians, the role of the Ministry of Foreign Affairs, the Chinese factor of the U.S-Japanese relations.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：国際関係論

キーワード：外交

#### 1. 研究開始当初の背景

中国が目覚ましい成長を遂げつつある現在、中国との関係がきわめて重要なことは論を待たないであろう。

単に日中両国にとって相手国が重要だというだけでなく、日中関係のあり方はアジア全体の安定や発展を左右するものとなっている。

その日中関係が歴史認識をめぐる摩擦によって停滞しがちなことも否定しがたい。

戦後日中関係の基盤をあらためて問い直す必要性のゆえんである。

#### 2. 研究の目的

日中国交正常化の実証研究は緒についたばかりといえるだろう。

このため、インタビューや情報公開請求などを通じて、根本資料から日中講和のあり方を組み上げていかなばならない。

現代東アジア国際関係の基盤を成した日中国交正常化の政治過程に注目すべきである。

日中講和を考察する際に欠かせないのが、日中戦争の史的研究である。

これについては、国際舞台となったブリュッセル会議を軸として、中国を代表する外交官の顧維鈞の足跡をたどりたい。

日中間の相互認識については、いわゆる歴史認識問題を視野にいれながらまとめていく。そこでは、「田中上奏文」や日中歴史共同研究も問題関心に含まれる。

#### 3. 研究の方法

本研究では、日中国交正常化の政治過程、とりわけ 1970 年代の日中講和に絞り込んで実証研究を行う。

日中講和の法的政治的性格、戦争の総括と謝罪の内実、台湾の地位、アメリカが日中関係の形成に果たした歴史的な役割などを解明する第一歩となる。

必要に応じて日華平和条約の解釈の変容、1980 年代の日中関係における歴史教科書や靖国問題等についても論及するが、研究の中心はあくまでも日中講和とする。

言い換えれば、現代日中関係の研究を主として国交正常化の側面から発展させるものであるが、公文書には表れない政策決定過程や人的関係について、インタビューをも駆使して浮き彫りにしていく。

#### 4. 研究成果

本研究は、現代東アジア国際関係の原型ともいべき日中講和の歴史を実証的に分析するものである。

インタビューと情報公開請求に力点を置いた。

日中関係史を実証のレベルと認識のレベルで分析し、相互認識の乖離が生じる原因を解明した。

着実な事例研究を積み上げながらも、日中間における発想の相違に着眼し、日中講和を多面的に解明すべく努めた。史料紹介も行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 40 件)

服部龍二「連立政権合意文書——1993-2012」(『中央大学論集』第 35 号、2014 年 2 月) 67-102 頁、査読なし

服部龍二「大平・蒋介石・沈昌煥会談記録——1964 年 7 月」(『外交史料館報』第 27 号、2013 年 12 月) 115-124 頁、査読なし

服部龍二「田中角栄元首相 没後 20 年に思う」(『新潟日報』2013 年 12 月 14 日文化面) 査読なし

服部龍二「日中対話のパイプをどう取り戻すか」(『中央評論』第 284 号、2013 年 7 月) 113-125 頁、査読なし

服部龍二「歴史認識問題——相剋と和解」(大芝亮編『日本の外交 第 5 巻 対外政策 課題編』岩波書店、2013 年 7 月) 227-244 頁、査読なし

服部龍二「日ソ不可侵条約問題——外務省座談会の記録から」(佐藤元英・武山眞行・服部龍二編著『日本外交のアーカイブズ学的研究』中央大学出版部、2013 年 3 月) 93-168 頁、査読なし

服部龍二「川田稔『戦前日本の安全保障』」(『日本経済新聞』2013 年 3 月 24 日朝刊 21 面) 査読なし

服部龍二「後宮虎郎アジア局第 2 課長研修所講演速記『日華平和条約交渉経緯』

1952年6月25日」(『中央大学論集』第34号、2013年2月)1-22頁、査読なし

服部龍二「断罪ではなく教訓を」(『歴史街道』2013年4月号)114頁、査読なし

服部龍二「岡崎嘉平太と中国」(岡山県郷土文化財団岡崎嘉平太記念館『日中国交正常化40周年記念 岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える 第11回講演会』岡山県郷土文化財団岡崎嘉平太記念館、2013年1月)1-16頁、査読なし

服部龍二「2011年12月22日公開ファイル『日中国交正常化』ほか」(『外交史料館報』第26号、2012年12月)79-109頁、査読なし

服部龍二「日中国交正常化を読み解く」(新潟日報社編『日中国交正常化—いま明かされる舞台裏』新潟日報事業社、2012年12月)152-165頁、査読なし

服部龍二「早野透『田中角栄』」(『日本経済新聞』2012年12月23日朝刊21面)査読なし

服部龍二「日満議定書」「日ソ中立条約」「リットン調査団」(貴志俊彦・松重充浩・松村史紀編『二〇世紀満洲歴史事典』吉川弘文館、2012年12月)380-381、386-387、518-519頁、査読なし

服部龍二「中曽根・胡耀邦関係と歴史問題1983-86年」(高原明生・服部龍二編『日中国関係史 1972-2012 政治』東京大学出版会、2012年9月)167-196頁、査読なし

服部龍二「尖閣諸島領有権の原点と経緯」(『外交』第15号、2012年9月)35-47

頁、査読なし

服部龍二「外交オーラル・ヒストリー」(『草のみどり』第259号、2012年9月)1頁、査読なし

服部龍二「ニュースの本棚 日中国交回復40年」(『朝日新聞』2012年9月16日13面)査読なし

服部龍二「日中関係 2つの原点—日中国交正常化と中曽根・胡耀邦関係」(『調査情報』第508号、2012年9・10月号)24-29頁、査読なし

服部龍二「日本の分岐点 40年前 日中国交正常化」(『毎日新聞』2012年8月26日朝刊4面)査読なし

②1服部龍二「孫平化 / 武吉次郎『中日友好随想録—孫平化が記録する中日関係』上下巻」(『日本経済新聞』2012年6月10日朝刊19面)査読なし

②2服部龍二「日中関係史の記憶と研究—1972年の国交正常化を中心として」(『中央評論』第64巻第1号、2012年5月)146-151頁、査読なし

②3Ryuji Hattori, "Controversies over the Tanaka Memorial," in Daqing Yang, Jie Liu, Hiroshi Mitani, and Andrew Gordon, eds., *Toward a History Beyond Borders: Contentious Issues in Sino-Japanese Relations* (Cambridge: Harvard East Asian Center, 2012), pp. 121-147、査読なし

②4服部龍二「ヘンリー・A・キッシンジャー / 塚越敏彦ほか訳『キッシンジャー回想

録 中国』上下巻」(『日本経済新聞』2012年5月6日朝刊19面) 査読なし

②⑤服部龍二「三宅正樹・石津朋之・新谷卓・中島浩貴編著『ドイツ史と戦争—「軍事史」と「戦争史」』(『週刊読書人』第2926号、2012年2月10日第4面) 査読なし

②⑥服部龍二「日中国交正常化—田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦」(『アジア時報』2012年1・2月号) 28-35頁、査読なし

②⑦服部龍二「日中国交正常化の精神とは」(『朝日新聞』2011年12月22日朝刊17面) 査読なし

②⑧服部龍二「丹波實『わが外交人生』」(『日本経済新聞』2011年9月11日朝刊29面) 査読なし

②⑨服部龍二「藤尾文相発言—外務省記録から」(『中央大学政策文化総合研究所年報』第14号、2011年8月) 61-80頁、査読なし

③⑩服部龍二「この人・この3冊 石原莞爾」(『毎日新聞』2011年4月17日11面) 査読なし

③⑪ Ryuji Hattori, “Japan's Continental Expansion Policy and the Chinese National Revolution Movement” (日中歴史共同研究、近現代史第1部第3章の英訳、2011年3月) 66-94頁、査読なし

③⑫服部龍二「幣原喜重郎」「広田弘毅」(伊藤隆・季武嘉也編『近現代日本人物史料情報辞典4』吉川弘文館、2011年3月) 316、333頁、査読なし

③⑬服部龍二「大平・鄧小平・華国鋒会談記録—1979年2、12月」(『中央大学論集』第32号、2011年3月) 37-69頁

③⑭服部龍二「中曽根・胡耀邦会談記録—1983、84、86年」(『総合政策研究』第19号、2011年3月) 161-203頁

③⑮服部龍二「広田弘毅について」(『比較法制研究』第33号、2010年12月) 103-118頁、査読なし

③⑯服部龍二「日中歴史認識と『田中上奏文』」(『UP』第452号、2010年6月) 1-5頁、査読なし

③⑰服部龍二「田中首相・ニクソン大統領会談記録—1972年8月31日、9月1日」(『人文研紀要』第68号、2010年3月) 413-444頁、査読なし

③⑱服部龍二「顧維鈞とブリュッセル会議—『条約の神聖』を求めて」(中央大学人文科学研究部編『中華民国の模索と苦境 1928~1949』中央大学出版部、2010年3月) 157-192頁、査読なし

③⑲服部龍二「日本の大陸拡張政策と中国国民革命運動」(日中歴史共同研究、報告書近現代史第1部第3章、2010年1月) 224-242頁、査読なし

④⑩服部龍二「大平・金鍾泌会談記録—1962年秋」(『人文研紀要』第65号、2009年9月) 193-234頁、査読なし

[学会発表](計3件)

服部龍二「種稻秀司『近代日本外交と「死活的利益」 第2次幣原外交と太平洋戦争への序曲』(芙蓉書房出版、2014年)」中央

大学政策文化総合研究所、2014年5月6日（東京）

服部龍二「日中国交正常化」日中関係学会、2012年4月20日（東京）

服部龍二『『田中上奏文』の戦前と戦後』日本国際政治学会、2009年11月8日（神戸）

〔図書〕（計4件）

服部龍二『大平正芳 理念と外交』（岩波書店、2014年）296頁

服部龍二『さかのぼり日本史 昭和“外交敗戦”の教訓 なぜ、日米開戦は避けられなかったのか』（NHK出版、2012年）185頁

③服部龍二『日中国交正常化』（中公新書、2011年）262頁

服部龍二『日中歴史認識 「田中上奏文」をめぐる相剋 1927-2010』（東京大学出版会、2010年）348頁

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

研究成果の一部は、  
<http://ryujihattori.a.ia9.jp/>に紹介してある。今後も、適宜更新していく。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

服部龍二 (HATTORI, Ryuji)  
中央大学・総合政策学部・教授  
研究者番号：80292712

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：